

学校だより

はす

ぬま

ちゅう

かがみ

蓮沼中鏡

平成29年度 第13号
平成29年11月27日発行
大田区立蓮沼中学校
校長 大原章博

『いのちはどこにあるの?』

11月27日(月)~12月1日(金)
生命尊重週間

今日(11月27日)からの1週間は、本校の生命尊重週間です。そこで、この機会に、9月の朝礼で話した医学博士 日野原 重明 先生の言葉をもう少し詳しく掲載します。2008年に月刊誌のインタビューで答えている内容なのです。

命とは君たちがもっている時間である

僕はいま人生において最も大切だと思うことを、次の世代の人に伝えていく活動を続けているんです。僕の話聞いた若い人たちが何かを感じとってくれて、僕たちの頭を乗り越えて前進してくれたらいいなと。

その一つとして僕は2年前から2週間に1回は小学校に出向いて、10歳の子どもを相手に45分の授業をやっています。

最初に校歌を歌ってもらいます。前奏が始まると子どもたちの間に入って、僕がタクトを振るの。そうすると子どもたちは外から来た年配の先生が僕らの歌を指揮してくれたというので、心が一体になるんですね。

僕が一貫してテーマとしているのは命の尊さです。難しい問題だからなかなか分からないけれどもね。

でも「自分が生きていると思っている人は手を挙げてごらん」と言ったら、全員が挙げるんです。

「では命はどこにあるの」って質問すると、心臓に手を当てて「ここにあります」と答える子がいます。

僕は聴診器を渡して隣同士で心臓の音を聞いてもらって、このように話を続けるんです。

「心臓は確かに大切な臓器だけれども、これは頭や手足に血液を送るポンプであり、命ではない。

命とは感じるもので、目には見えないんだ。

君たちね、目には見えないけれども大切なものを考えてごらん。

空気は見えるの。酸素は。風が見えるの?でもその空気があるから僕たちは生きている。

このように大切なものは目には見えないんだよ。」と。

それから僕が言うのは

「命はなぜ目には見えないか。それは命とは君たちが持っている時間だからなんだよ。

死んでしまったら自分で使える時間もなくなってしまう。

どうか一度しかない自分の時間、命をどのように使うかしっかり考えながら生きて行ってほしい。

さらに言えば、その命を今度は自分以外の何かのために使うことを学んでほしい。」

ということです。

僕の授業を聞いた小学生からある時、手紙が届きましたね。そこには

「寿命という大きな空間の中に、自分の瞬間瞬間をどう入れるかが、私たちの仕事ですね」

と書かれていた。10歳の子どもというのは、もう大人なんですよ。あらゆることをピンと感じる感性をもっているんです。

僕自身のことを振り返っても、10歳の時におばあちゃんの死に接して、人間の死というものがわかりました。子どもたちに命の大切さを語り続けたいと思うのもそのためです。

大切にすべきものは、意外に目に見えないものなのです。命・時間・空気・酸素・風。命も時間も目に見えないのです。これらは、大切にすべきものであり、自分の考えで生き方も変わってくるのです。

日野原先生の言うとおりでとすると、命は自分の持っている時間ということになります。だからこそ、生きてるとドキドキするし、ワクワクしたり、悲しかったり、寂しかったりいろんな感情を経験するのかもしれない。

「命を大切に」と簡単に言うことはできます。もちろん、命は2つも3つもあるものではなく、その人には、たった1つしかないから大切にすることです。今生きている自分は、世界中に1人しかいない唯一無二の存在です。その自分を見つめることは、自分をよく知り、自分の良さを認めることから始まります。今生きている自分の存在を認め、今生きている自分のかけがえのなさを理解することで、他の命、他の人たちの存在を尊重するようになるのです。ただ、命には限りがあるのです。生あるものは必ず死を迎えます。しかも、一度失った命は取り返すことができません。だからこそ命はかけがえのないものなのです。

では、命の大切さを実感するのはどんな時なのでしょう。今生きている喜びを感じることができるときです。「生きていてよかった!」「生きるって素晴らしい!」と感じるのは、「自分にもいいところがあるんだ」「今のままの自分でいいんだ」と感じる時ではないでしょうか。そして、学校行事等でクラスの仲間や友達と心が一つになるような連帯感を味わって、思わず「やったー!」と叫んでしまうとき、何かの課題に一生懸命取り組んで「できた!」という声を思わずあげてしまうようなとき、人の役に立てたという満足感を味わったときなどの喜びの体験をしたときにも感じるものです。そして、唯一無二の存在である自分自身が限りある命を生きていることで、さまざまな喜びの体験や他の人と共に支え合っていることへの感謝の気持ち等が、生きることの喜びを深いものにしていくのです。自分一人で生きているのではなく、まわりの人と共に生きているという思いをもつことも大切です。

生徒の活躍

★第46回大田区立中学校連合学芸会★

- 音楽の部…本校合唱コンクール金賞クラス 3年C組 「絆」 11/ 7<アプリコ大ホール>
- 演劇の部…演劇部「覚えてないで」推薦奨励校として都大会出場 11/ 7<区民プラザ大ホール>
- 英語の部…英語部「The Three Little Pigs」 11/10<区民センターホール>



- 大田区立中学校美術展 ☆54点を本校から出展 11/ 8~15
 - ・「明朝体でマイネーム」(1年から6点)
 - ・「銘々皿」(2年から24点)
 - ・「不思議な点描の世界」(3年から12点)
 - ・「孔版シルクスクリーン」(3年から22点)
- 伴奏(P T A合唱)…大田区立中学校P T A音楽祭 11/11(1C佐々木)
- 卓球部…大田区中学校新人卓球大会 男子団体 4位 都大会出場(Aチーム) 11/11, 12
- 「税についての作文」…蒲田税務署長賞(3B福本)
- 親子で読もう新聞コンクール…大田区教育委員会賞(2C大関)・学年別優秀賞(2A保坂) 11/17